

ブラジルの選挙における便乗効果

菊池 啓一

はじめに

2014年10月26日に行われた大統領選挙の決選投票において、約3%ポイント差という僅差で再選を決めた労働者党 (Partido dos Trabalhadores: PT) のジルマ (Dilma Rouseff)⁽¹⁾であるが⁽²⁾、2015年1月1日に発足した第2期政権は早くも多くの難題を抱えている。財政再建を目指し、財務大臣に国際通貨基金 (IMF) や国庫、大手銀行系の投資会社などでの豊富な経験を持つレヴィ (Joaquim Levy) が起用されているものの、3月3日にはさまざまなセクターの企業に対する税率を引き上げる「暫定措置」 (Medida Provisória)⁽³⁾の法制化に向けた審議を上院が拒否するなど、議会が財政改革に大きく抵抗している⁽⁴⁾。また、選挙前に発覚した石油公社のペトロブラス (Petrobras) をめぐる一連の汚職問題は、複数の政党を巻き込んだ過去最大規模の汚職事件に発展しつつあり⁽⁵⁾、与党連合の一員ではあるが必ずしも労働者党に協力的ではないブラジル民主運動党 (Partido do Movimento Democrático Brasileiro: PMDB、以下「民主運動党」と略す) のクーニャ (Eduardo Cunha) 下院議長は、あらゆる汚職問題について議会査問委員会 (Comissão Parlamentar de Inquérito: CPI) を利用してジルマを追い詰める姿勢を崩していない⁽⁶⁾。これらの出来事は市民の政治不信を増幅させるには十分であり、3月16～17日に調査機関の1つであるダッタフォーリャ (Datafolha) が行っ

た世論調査によれば、ジルマ政権の支持率は13%にまで低下している。さらに、3月15日には全州で170万人が参加する反政府デモが発生し、また、4月12日にもほぼ全土で54万人を動員するデモが行われるなど、断続的にジルマ政権に対する抗議運動が発生する事態となっている (Folha de S. Paulo, 13 de abril de 2015)⁽⁷⁾。

ジルマと議会の関係が難しくなっている背景には、2014年の選挙で与党労働者党が大幅に議席を減らしてしまったことがある。下院選と上院選による各党の議席構成の変化を示した表1からも明らかなように、与党連合は両院ともに過半数を維持したものの、下院では約30の議席を失った。とくに、選挙で70議席しか確保できなかった労働者党は、一部の議員が当選後に州政府の役職に就いたことなどもあり、その議席数を64にまで減少させている。また、3分の1の議員の改選が行われた上院では、ほぼ同数の議席を維持しているが、アクレ州・エスピリトサント州・サンパウロ州で1議席ずつ失った⁽⁸⁾。その結果、両院ともに与党連合内の最大勢力である民主運動党の発言力が増しており、議事運営に対して大きな影響力を持つ下院議長と上院議長のポストを同党が独占している。とくに、前者には民主運動党のなかでもジルマと対立しているクーニャが選出されてしまったため、政権運営にとって大きな障害となっているのである。

それでは、上院選・下院選において、なぜ労働者党は議席を伸ばすことができなかつたのであろうか。この疑問を追求するうえでの一助になると思われるのが、議会選挙の結果が、同時期に行われる他の選挙の結果の影響を受ける「便乗効果 (coattail effect)」の問題である。既存のブラジル政治研究では、同日に行われる知事選の下院選への影響が議論されてきた。そこで本稿においても、知事選の議会選挙に対する便乗効果に注目しつつ、2014年に行われた上院選と下院選の結果の理解を試みる。具体的には、まず政治学での便乗効果をめぐる研究動向について簡単に概観し、続いてブラジル政治の特徴と知事選の便乗効果の関係を把握する。そして、2014年の知事選・上院選・

下院選での政党連合のパターンと選挙結果を分析する。

I 知事選の便乗効果とブラジル政治

1 便乗効果とは？

便乗効果とは、狭義にはある政党から立候補した候補者の個人的な資質が、同時に行われる他の選挙における同党の候補者の得票に与える効果を指すが (Miller [1955])、広義には国政レベルもしくは地方政治レベルの何らかの要因が、他のレベルの選挙結果に影響することも含まれる (Meredith [2013])。便乗効果に関する研究はおもに米国で発展しており、同国での大統領選の下院

表 1 2014年下院選・上院選による議席構成の変化

	下院		上院	
	選挙前 (2014年10月)	選挙後 (2015年4月)	選挙前 (2014年10月)	選挙後 (2015年4月)
労働者党 (PT)	88	64	13	14
ブラジル民主運動党 (PMDB)	71	67	19	18
民主社会党 (PSD)	45	34	0	4
進歩党 (PP)	40	40	5	5
共和党 (PR)	32	34	4	4
ブラジル労働党 (PTB)	18	25	6	3
ブラジル共和党 (PRB)	10	20	1	1
その他の与党 (与党連合合計)	53 357	44 328	8 56	7 56
ブラジル社会民主党 (PSDB)	44	53	12	11
ブラジル社会党 (PSB)	24	32	4	6
民主党 (DEM)	28	22	4	5
その他の野党	60	78	5	3
合計	513	513	81	81

(出所) O Estado de S. Paulo, 27 de outubro de 2014 および下院 (www2.camara.leg.br/)・上院 (www.senado.leg.br/) のホームページをもとに筆者作成。2015年4月16日。

選に及ぼす影響が1940年代から注目を集めてきた (e.g., Bean [1948])。米国の下院の任期は2年であるが、下院選の2回に1回は大統領選と同時にされる。その際、大統領候補は多額の選挙資金を調達し、党中央も大統領選にフォーカスした選挙戦を展開する。他方、メディアも大統領選に関する話題を多く取り上げるため、有権者の関心も大統領選の争点に集中する。そのため、下院議員候補に自身の選挙運動を大統領選とリンクさせるインセンティブが生まれる。ただし1950年代以降、大統領選の便乗効果は低下傾向にあり (Ferejohn and Calvert [1984])、大統領選の結果はその2年後の下院選 (中間選挙) の結果に負の影響を与えるとする議論もある (Fair [2009])⁽⁹⁾。また、大統領選の上院選への便乗効果 (Campbell and Sumners [1990]) や、知事選の州議会選 (Hogan [2005]) や州務長官選・州司法長官選への影響 (Meredith [2013]) も確認されている。

米国での便乗効果の研究対象が、おもに大統領選が議会選挙に与える影響についてであるのに対し、ラテンアメリカ政治研究では「下からの便乗効果」、すなわち地方政治が下院選に与える影響に注目が集まっている。たとえば、州レベルの党组织を支配している知事が、下院選の候補者選出過程でも重要な役割を果たしているアルゼンチンの1983～1995年のデータを分析したジョーンズ (Jones [1997]) は、知事選と下院選が同時に行われる場合⁽¹⁰⁾、前者の候補者調整の影響を受けて、後者の有効政党数⁽¹¹⁾が減少することを明らかにした。また、民主化にともない知事の重要性が増しているとされているメキシコでも下からの便乗効果がみられ、同時選挙で知事選が下院選の得票率に与える影響の方が、大統領選が下院選に与える影響よりも大きい⁽¹²⁾。また、以前は政党によってその恩恵を受ける度合いが異なっていたが、民

主化以降、その差異は小さくなっているという (Magar [2012])。

2 ブラジル政治の特徴と便乗効果

他方、ブラジル政治研究でも「下からの便乗効果」に注目が集まっている。その議論を理解するための準備作業として、ここでブラジル政治の特徴を簡単に紹介しておきたい。大統領制と連邦制を採用しているブラジルは、連邦政府、26の州とブラジリア連邦区、ムニシピオ (município)⁽¹³⁾によって構成されている。同国の議会システムは、上下両院で議員の選出方法が異なり、また、立法過程において上院も下院とほぼ同等の権限を持つ二院制である (Llanos and Nolte [2003])。上院議員は各州とブラジリア連邦区から3名ずつ選出され、任期は8年で4年ごとに各州2名または1名の議員が改選となる。一方、513名の下院議員は、各州とブラジリア連邦区から4年の任期で非拘束名簿式比例代表制⁽¹⁴⁾によって選出される。下院議席は人口比に応じて各州に配分されるが、憲法第45条により8～70議席とされているため、人口の最も少ないロライマ州は8議席で「過大代表」されており、最も多いサンパウロ州は70議席で「過少代表」されている。

大統領は国民による直接選挙によって4年の任期で選出され⁽¹⁵⁾、連続再選が1回だけ認められている。大統領には憲法上、幅広い権限が与えられており、とくに法的効力が発生する「暫定措置」の発令権は他の大統領制国家ではあまりみられない非常に強い権限である。また、内閣改造にも議会の承認を必要としないなど、制度的には米国大統領をはるかにしのぐ権限を有している (Shugart and Carey [1992])。その一方で、ブラジルは非常に政党数の多い多党制の国であり、2014年の下院選では28の政党が議席を獲得した。与党一党

のみで過半数を占めることはほぼ不可能であるため、民主化後の大統領はいずれも与党連合の形成を強いられており、議会との緊張関係を余儀なくされている⁽¹⁶⁾。

また、知事も4年の任期で選出され、1回の連続再選を認められている。知事は州予算の決定に大きな影響力を持ち、加えて、連邦政府からの財政移転をともなった大型投資プロジェクトの運営や、多くの人事に関する権限を持つ。民主主義が定着して間もない国の有権者と政治家の関係は、クライエンテリズム的なものになりがちであるが(Kitchelt [2000])、ブラジルでも政治家の選挙における優位性はマシーン(集票のための組織)に依存しており、多くの州で最大の「雇用主」である州政府を握っている知事は、マシーンを構築する上で非常に有利な立場にある(Samuels [2003])。よって、ブラジルの政治家にとって、知事職は大統領職のつぎに魅力的なポストになっている(Power and Mochel [2008])。

憲法の規定により、大統領選・上院選・下院選・知事選はすべて4年ごとに10月の第1日曜日に行われる⁽¹⁷⁾。また、大統領選と知事選で有効票の過半数を獲得した候補者がいない場合には、10月の最終日曜日に上位2名による決選投票が行われる。

以上、ブラジル政治の特徴について簡単に述べたが、便乗効果についてはどのような議論が展開されているのであろうか。ブラジル政治研究で初めて広義の意味での便乗効果に着目したのは、ムニシピオの首長の党派性の大統領選への影響を分析したエイムズ(Ames [1994])であったが⁽¹⁸⁾、近年の比較政治学に大きな影響を与えたのは、サミュエルズ(Samuels [2003])の知事選の便乗効果の研究である。彼によれば、米国での大統領選と下院選の相関関係は、ブラジルでは知事選と下

院選との間に見出すことができる。ブラジルでは無所属による出馬が認められていない。よって、下院選の候補者はいずれかの政党の候補者名簿に掲載される必要があるが、名簿は州レベルの党組織によって知事選・上院選・州議会選の候補者とともに決定される⁽¹⁹⁾。また、下院選は非拘束名簿式比例代表制であるため、他の選挙制度と比べて政党よりも候補者個人の名前を前面に出す必要がある(Carey and Shugart [1995])、多額の選挙資金が必要となるが、州レベルの党組織の要職に就いていることの多い知事選候補者はその「スポンサー」として魅力的な存在である。さらに、その候補者が知事に当選した暁には、下院選候補者も彼のマシーンを将来利用できる可能性がある。そして、知事候補者の選挙戦は地元のメディアに詳しく取り上げられるため、ともに選挙キャンペーンを行うことによって下院選候補者自身の名前を宣伝することもできる。以上の理由から、下院選候補者には自身の選挙キャンペーンを知事選と結びつけるインセンティブがあり、その結果、知事選の結果が下院選にも影響を与えるというのである。

サミュエルズは以上の議論を計量分析によって検証したが、その手法に誤りがあったとして後に大きな批判にさらされることになった(e.g., Brambor et al. [2006])。しかし、1994～2010年の下院選を分析したソアレス(Soares [2013])によれば、各政党の知事選での得票率は下院選での得票率に大きく影響しているという⁽²⁰⁾。それでは、2014年も知事選と下院選との間に相関関係がみられたのであろうか。次節では知事選の便乗効果に注目しつつ、2014年の選挙を分析していく。

II 2014年選挙の分析

前節で検討したように、便乗効果は世界各国で見られる現象であるが、ブラジルではとくに知事選の国政レベルの議会選への影響が示唆されてきた。よって、上院選・下院選で労働者党が議席を伸ばすことができなかつた理由を考察するには、2014年の選挙でも知事選の便乗効果が生じていたのかを把握することが必要であろう。本節では、とくにサミュエルズ (Samuels [2003]) が分析対象とした政党連合のパターンと選挙結果について検討してみたい。

1 政党連合のパターン

先述のように、ブラジルは政党数の非常に多い多党制の国であり、労働者党や民主運動党、ブラジル社会民主党 (Partido da Social Democracia Brasileira: PSDB, 以下「社会民主党」と略す)、民主党 (Democratas: DEM) などの全国規模の支持基盤を持った政党をもってしても、単独で多数派となることは難しい。よって、いずれのレベルの選挙でも、常に政党連合が形成される。2014年の大統領選では、与党の労働者党は民主運動党をはじめとする8党と連合を組んでジルマを擁立し、野党の社会民主党は民主党などの8党とともにアエシオ (Aécio Neves) 上院議員を大統領候補とした。また、飛行機事故で急逝したカンポス (Eduardo Campos) ペルナンブコ州知事の後を受けて立候補したマリーナ (Marina Silva) 元上院議員の政党連合は、ブラジル社会党 (Partido Socialista Brasileiro: PSB, 以下「社会党」と略す) などの6党で構成されていた。このうち、労働者党と社会党を左派、社会民主党を中道ととらえることができるが、上記の政党連合は必ずしもイデオロギーを基盤とはしていない。たとえば、労働者

党のパートナーである民主運動党は中道政党であり、イデオロギー的には社会民主党に近い (Zucco [2011])。さらに、進歩党 (Partido Progressista: PP) のように、右派であるにもかかわらず労働者党と連合を組んでいる政党がある一方で、ブラジル労働党 (Partido Trabalhista Brasileiro: PTB) のように、大統領選ではアエシオを支持し、選挙後は与党連合に参加している政党もある。

一方、各知事選での政党間の連合関係を示した表2から、国政レベルと州レベルでは連合の組み合わせが大きく異なることがわかる。同表の数値は、縦軸の政党と横軸の政党がいくつの知事選で政党連合を組んでいたのかを表しているが、民主運動党は9つの知事選でしか労働者党と連合を組んでおらず、他の9つの知事選ではむしろ社会民主党の方と連携している。また、知事選の政党連合でもイデオロギーはあまり重要ではなく、左派の労働者党は右派の民主党と3つの知事選で連合を組んでいる。

それでは、知事選と上院選・下院選の政党連合の関係はどうであろうか。下院選は非拘束名簿式比例代表制であるが、各候補者の得票は政党レベルではなく政党連合レベルで集計され、政党連合に対して議席が配分される。よって、知事選の便乗効果が発生するには、知事選と下院選で連合を構成する政党が一致する必要がある (Samuels [2003])。また、2014年の上院選は各州1名改選で実質的に小選挙区制となったが、後述のように政党連合は上院選には知事選とは異なる政党の候補を配することが多いため、その場合にも知事選と上院選で連合を構成する政党が一致することが重要である。

表3は、1998年と2014年の各選挙での政党連合の一致度を示したものであるが、ここから2つの特徴を読み取ることができる。第一に、いずれ

表2 2014年の各知事選における政党間の連合関係

政党	PT	PMDB	PSD	PP	PR	PRB	PTB	PSDB	PSB	DEM
労働者党 (PT)		9	7	6	8	9	10	0	5	3
ブラジル民主運動党 (PMDB)	9		12	8	8	11	5	9	7	10
民主社会党 (PSD)	7	12		11	13	10	10	14	8	13
進歩党 (PP)	6	8	11		13	10	17	14	7	7
共和党 (PR)	8	8	13	13		8	12	12	5	11
ブラジル共和党 (PRB)	9	11	10	10	8		12	13	11	8
ブラジル労働党 (PTB)	10	5	10	17	12	12		10	5	5
ブラジル社会民主党 (PSDB)	0	9	14	14	12	13	10		11	16
ブラジル社会党 (PSB)	5	7	8	7	5	11	5	11		9
民主党 (DEM)	3	10	13	7	11	8	5	16	9	

(出所) Melo [2015] と選挙最高裁判所のホームページ (www.tse.jus.br/) をもとに筆者作成。2015年4月16日。

(注) 網かけ部分は、2014年の大統領選でジルマを支持する連合に参加していた政党間の関係を示している。

の年の選挙でも、大統領選とその他の選挙の政党連合の一致度が低い。前節で述べたように、後者が州レベルの党組織によって決定されるのに対し、前者は連邦レベルの党組織間の交渉によって形成される。その結果、両者はあまり一致せず、とくに2014年の大統領選に出馬したジルマ・アエシオ・マリーナの政党連合と構成が完全に一致した連合は、知事選・下院選・上院選にひとつも存在しなかった。そして第二に、知事選と下院選の政党連合の一致度の低下である。1998年の選挙では、実に97%の政党連合が同じ構成であり、サミュエルズ (Samuels [2003]) が便乗効果の存在を強く主張する根拠となった。一方、2014年

の選挙では、知事選と上院選の政党連合の一致度は77%であったが、知事選と下院選の連合の一致度は53%にまで低下した。

以上の2つの特徴のうち、第二の特徴をよく表しているのが、サンパウロ州での政党連合のパターンである。1998年は知事選・下院選ともに政党連合の数は5つであり、両者の構成は完全に一致していた (Samuels [2003])。しかし、2014年の選挙では知事選と上院選で9つ、下院選に至っては20の候補者名簿 (政党連合) が提出された。表3で政党連合の組み合わせの数を示すNの数が増加していることからわかるように、1990年代から2010年代にかけて州レベルの政党シス

表3 1998年と2014年の各選挙での政党連合の一致度

選挙年	大統領・知事	大統領・下院	大統領・上院	知事・下院	知事・上院
1998	20% (N=83)	29% (N=92)	- (注)	97% (N=97)	- (注)
2014	12% (N=411)	12% (N=468)	11% (N=417)	53% (N=236)	77% (N=184)

(出所) Samuels [2003] と選挙最高裁判所のホームページ (www.tse.jus.br/) をもとに筆者作成。2015年4月16日。

(注) 1998年に関しては上院選のデータを選挙最高裁判所のホームページから入手することができなかった。

テムの「断片化 (fragmentation)」が進み、知事候補者による各選挙の政党連合の調整が以前よりも難しくなっている可能性がある。また、上院議員候補の枠は、しばしば政党連合の形成に向けた交渉材料としても利用される (Lodola [2010])。2014年の選挙で、民主社会党 (Partido Social Democrático: PSD) はサンパウロ州で社会民主党と民主運動党の双方と交渉を行ったが、最終的には上院議員候補の枠を保証した後者との連合を選択した (*Folha de S. Paulo*, 28 de junho de 2014)。上院は下院と比べて個人の発言力が大きく、任期も8年間保証される (Llanos and Sánchez [2006])。さらに、ブラジルでは元大統領⁽²¹⁾のような経験のある政治家が務めるポジションである一方で、任期満了後に知事職をねらえる位置でもある。そのため、上院議員候補を媒介として政党連合が形成され、知事選と上院選の連合は比較的一致する傾向にあると考えられる。

2 選挙結果

これまでの考察から、2014年に実施された知事選と上院選での政党連合の構成は比較的一致しているものの、知事選と下院選での政党連合の一致度は以前よりも低下していることが判明した。それでは、労働者党は便乗効果の恩恵を受けることができなかつたのであろうか。ここでは、選挙結果⁽²²⁾を検討することにより、この問題について考えてみたい。

表4は、2014年の各選挙の結果を示したものである。まず知事選と下院選に注目すると、両者が密接に関連していることがわかる。知事当選者の政党が所属する連合が知事選と下院選とで完全に一致していた13の州のうち、9つの州で同連合が最も多くの下院議席を獲得していた。しかも、残りの4つの州のうち、マツグロツドスル州

とパライーバ州は、決選投票で第一回投票では2位だった候補が逆転勝利を収めた事例であり⁽²³⁾、いずれの州でも第一回投票で1位であった候補の政党連合が下院議席を最も多く確保した。よって、知事選の結果と下院選の結果との間にはかなり強い相関関係があると想定される⁽²⁴⁾。

ただし、知事選と下院選の政党連合が一致していない場合でも、多くの州で知事当選者の政党が属する連合が下院選で最も議席を獲得している。たとえば、サンパウロ州の社会民主党は13の政党とともに現職のアルキミン (Geraldo Alckmin) を知事選に擁立し、57.3%の得票率で再選させたが、下院選では同党の連合に参加したのは13政党のうちの2党のみであった。しかし、それでも主要政党である民主党が残ったため、社会民主党はサンパウロ州で選挙前から5議席上積みし、15議席を獲得した。また、社会党はペルナンブコ州で20の政党と連合を組んで知事選を戦った。下院選では、そのうちの6党が別の連合を組んで離脱したが、主要政党の民主運動党や社会民主党、民主党が残ったため、いずれの選挙でも68.1%と68.7%という高得票率で圧勝した。以上の2例は、仮に知事選と下院選の政党連合が一致していなくても、主要政党間の連合関係に変化がない場合には、便乗効果が発生する可能性を示唆している。

一方、下院選で上記の便乗効果の割を食ってしまったのが労働者党であった。サンパウロ州では他の2党とともに元保健大臣のパジーリャ (Alexandre Padilha) を知事選に出馬させたが、彼自身の汚職スキャンダルとアルキミンの圧勝によって18.2%の得票にとどまり、労働者党も同州での下院議席を5つ減らすこととなった。さらに、ペルナンブコ州でも、労働者党が支持したブラジル労働党の知事候補が大敗を喫し、下院選でも改選前の4議席をすべて失った。このように、2014

表4 2014年の各選挙の結果

州	知事 当選者の政党	下院		上院 当選者の政党と知事当選者の政党の関係
		知事当選者の政党が属する連合の獲得議席数	順位 ^(注)	
知事当選者の政党連合が知事選と下院選で同じ州 (13州)				
アクレ	労働者党	5	1	連合
アラゴアス	ブラジル民主運動党	4	1	連合
アマパ	民主労働党	2	1	対立
連邦区	ブラジル社会党	2	1	連合
ゴイアス	ブラジル社会民主党	13	1	対立
ミナスジェライス	労働者党	17	2	対立
マツトグロソドスル	ブラジル社会民主党	2	3	対立
パライーバ	ブラジル社会党	3	2	対立
ピアウイ	労働者党	5	1	連合
ロンドニア	ブラジル民主運動党	5	1	連合
ロライマ	進歩党	0	4	対立
サンタカタリーナ	民主社会党	9	1	連合
トカンチンス	ブラジル民主運動党	4	1	同一政党
「順位」が1位の州の数		9		
知事当選者の政党連合が知事選と下院選で異なる州 (14州)				
アマゾナス	社会秩序共和党	5	1	連合
バイーア	労働者党	23	1	連合
セアラ	労働者党	14	1	対立
エスピリトサント	ブラジル民主運動党	4	1	同一政党
マラニョン	ブラジルの共産党	5	2	連合
マツトグロソ	民主労働党	5	1	対立
パラ	ブラジル社会民主党	7	1	対立
ペルナンブコ	ブラジル社会党	18	1	同一政党
パラナ	ブラジル社会民主党	15	1	同一政党
リオデジャネイロ	ブラジル民主運動党	19	1	対立
リオグランデドノルテ	民主社会党	2	2	連合
リオグランデドスル	ブラジル民主運動党	5	3	対立
セルジッペ	ブラジル民主運動党	5	1	対立
サンパウロ	ブラジル社会民主党	20	1	同一政党
「順位」が1位の州の数		11		
知事・上院当選者が同じ党・連合の州の数				15

(出所) 選挙最高裁判所のホームページ (www.tse.jus.br/) をもとに筆者作成。2015年4月16日。

(注) 順位は、下院選で知事当選者の政党が所属する連合の獲得議席数が、各州で何番目であったのかを示している。「1位」には1位タイの場合も含まれている。

年の下院選では、労働者党にとって逆風となる便乗効果が働いてしまったと考えられる。

つぎに、知事選と上院選の関係に焦点を当てると、ある程度の関連性は観察できるものの、知事選と下院選ほどは結果が連動してない。26の州と連邦区のうち、知事と同じ党もしくは同じ連合から擁立された上院議員候補が当選したのは15の州にとどまった⁽²⁵⁾。下院選と比べて知事選と上院選との間に明示的な関連性がみられない背景の一つには、上院議員候補者と下院議員候補者のプロフィールの違いがあると考えられる。先述したように、ブラジルにおける上院議員職は、知事職をねらう政治家や元大統領が務めるポジションである。よって、候補として選ばれた時点で、すでに自らの力のみで集票する能力を持っている可能性が高い。たとえば、リオデジャネイロ州の上院選には、労働者党と連合を組む社会党から元サッカーブラジル代表のロマーリオ（Romário）が出馬したが、労働者党から知事選に出馬したリンドベルグ（Lindberg Farias）の支持者だけでなく、他の有力な知事候補者の支持者からも同程度の支持を獲得し⁽²⁶⁾、63.4%の有効票を得て当選した。一方、上院議員候補自身の集票能力が、便乗効果による逆風を跳ね返すには至らなかった例もある。サンパウロ州の上院選で4選に挑戦した労働者党のスプリシー（Eduardo Suplicy）は、同党から知事候補として擁立されたパジーリャの支持層だけでなく、アルキミンの支持者の約25%からも票を獲得したが⁽²⁷⁾、アルキミンの支援を受けたセーハ（José Serra）に敗れ、24年間保持してきた上院の議席を手放すこととなった。

以上みてきたように、2014年の選挙でも、知事選と国政レベルの議会選との間には相関関係が存在している。しかし、その様相は過去の選挙のデータにもとづいて既存の研究が描き出したもの

とは異なっている。知事選と上院選における政党連合の一致度は比較的高いものの、知事選と下院選での一致度は1998年の選挙と比べて著しく低下している。他方、選挙結果にみられる知事選の便乗効果は、上院選よりも下院選に対してより大きいものになっており、政党連合が一致しない場合でも、主要政党間の連合関係に変化がない限りにおいては同様の影響力がみられる。そして、とくに下院選では、この便乗効果が労働者党にとって逆風になってしまったと考えられる。

むすび

2014年に行われた議会選で、なぜ労働者党は議席を伸ばすことができなかったのであろうか。この疑問を追求するため、本稿では便乗効果という視点から、2014年の上院選・下院選の分析を試みた。まず、政治学での便乗効果に関する研究動向を把握し、ブラジル政治では知事選が下院選の結果に影響を与える可能性があることを確認した。そして、2014年に行われた上院選・下院選を政党連合のパターンと選挙結果に着目して分析し、とくに知事選と下院選での政党連合の一致率が1998年と比べて大きく低下している点、選挙結果にみられる知事選の便乗効果は下院選においてより大きなものとなっている点、その効果が2014年の選挙においては労働者党に対する逆風になったと考えられる点を指摘した。しかし、本稿の考察は相関関係のみに注目した非常に予備的なものであり、便乗効果を生み出す因果メカニズムを特定するには至っていない。より詳細な分析を今後の課題としたい。

注

- (1) ブラジル国内では、マスメディアを含めて名字の「ルセフ」ではなく名前の「ジルマ」の方を広く用

- いている。以下、人名については、ブラジル国内で一般的に使用されている呼称を用いる。
- (2) 2014年の大統領選挙の展開については、拙稿（菊池 [2014]）を参照されたい。
 - (3) 大統領によって発せられる「暫定措置」のこと。官報への掲載によって法律と同等の効力を発するが、基本的に60日以内に法制化されない場合は効力が失われる（堀坂 [2013]）。
 - (4) しかし、5月26日に年金改革を内容とする暫定措置が可決されるなど（*Folha de S. Paulo*, 27 de maio de 2015）、議会の財政改革への抵抗は弱まりつつある。
 - (5) 以前ルーラ（Luiz Inácio Lula da Silva：2003～2010年在職）政権下で発生した「メンサロン（Mensalão）」事件をもじり、「ペトロロン（Petrolão）」と呼ばれつつある。
 - (6) ただし、クーニャ自身も「ペトロロン」の渦中にある。
 - (7) いずれの数字も軍警察（Policia Militar）が発表したデモ参加者数である。
 - (8) このうち、アクレ州では労働者党の上院議員候補は擁立されていなかった。
 - (9) フェア（Fair [2009]）によれば、下院選の結果はおもに経済状況と現職優位（incumbency advantage）によって説明される。
 - (10) 州知事と下院議員の任期はともに4年であるが、後者は2年ごとに半数が改選される。
 - (11) 選挙が実際にはどのくらいの数の政党（候補者）間で争われたのかを把握するための指標で、ラクソとタゲペラ（Laakso and Taagepera [1979]）によって開発された。各党の得票率の二乗を合計し、それを逆数にすることによって求められる。
 - (12) 大統領の任期が6年であるのに対し下院の任期は3年であるため、下院選の2回に1回は大統領選と同時に行われる。一方、知事の任期も6年であるが選挙日程が州によって大きく異なるため、知事選と下院選の日程が重ならない州もある。
 - (13) 基礎自治体のこと。
 - (14) 比例代表制の一つで、各政党（連合）は候補者名簿に事前に順位を付けず、各候補者の得票順に当選が決まる制度。日本でも、2001年以降の参議院議員選挙で用いられている。
 - (15) 1994年の憲法修正までは、任期は5年であったが、再選が認められていなかった。
 - (16) そのため「連合大統領制（presidencialismo de coalizão）」と呼ばれている（堀坂 [2013]）。
 - (17) 州議会選も同日に行われる。
 - (18) 関連する議論として、各大統領の任期の2年目に行われるムニシピオの首長選（市長選）を「中間選挙」ととらえるアプローチもある（舩方 [2013]）。
 - (19) ブラジルでは予備選挙はほぼ採用されていない。また、かつては現職議員が自動的に候補者名簿に掲載される「生得候補（candidato nato）」という制度が存在していたが、2002年に廃止された。
 - (20) 彼女によれば、大統領選と知事選の双方の結果が下院選の得票率に影響している。ただし、知事選の影響の方が大きい（Soares [2013]）。
 - (21) 現在はアラゴアス州選出のコロル（Fernando Collor de Mello）のみであるが、かつてはフランコ（Itamar Franco）やサルネイ（José Sarney）も上院議員を務めていた。
 - (22) サミュエルズ（Samuels [2003]）は得票率と有効政党数を用いて選挙結果を検討したが、本稿の関心は労働者党が上院選・下院選で議席を伸ばすことができなかった点にあるため、おもに獲得議席数に焦点を当てて分析を行う。
 - (23) その他にも、アマゾナス州・パラ州・リオグランデドノルテ州で第一回投票の際は2位であった候補者が決選投票に勝利した。
 - (24) 実際に知事選と下院選での各政党連合の得票率の相関係数を計算すると、0.879（0.1%水準で有意）となる。
 - (25) ただし、パラ州では知事当選者の政党連合が知事選と上院選で一致していない。また、知事選と上院選での各政党連合の得票率の相関係数は0.841（0.1%水準で有意）と非常に高いが、得票率の相関と実際の議席獲得結果の乖離^{かいり}の考察については、今後の研究課題としたい。
 - (26) 投票日前日・前々日の2014年10月3～4日に行われた世論調査機関ダッタフォーリャ（Datafolha）の調査結果による（[http:// datafolha.folha.uol.com.br/](http://datafolha.folha.uol.com.br/)）。2015年4月28日。
 - (27) 2014年10月2日に行われた世論調査機関ダッタフォーリャの調査結果による（<http:// datafolha>）。

folha.uol.com.br/。2015年4月28日。

参考文献

<日本語文献>

- 菊池啓一 [2014] 「2014年大統領選挙とブラジルにおける政党政治」(『ラテンアメリカ・レポート』 Vol. 31 No.2 2-16 ページ)。
- 堀坂浩太郎 [2013] 「民主化と現在進行形の政治改革」(近田亮平編『躍動するブラジル—新しい変容と挑戦—』アジア経済研究所 20-51 ページ)。
- 舩方周一郎 [2013] 「ブラジル地方選挙と地域政治の水平的／垂直的關係」(『ラテンアメリカ・レポート』 Vol. 30 No.2 57-66 ページ)。

<外国語文献>

- Ames, Barry [1994] “The Reverse Coattails Effect: Local Party Organization in the 1989 Brazilian Presidential Election,” *American Political Science Review*, Vol. 88, No. 1, pp.95-111.
- Bean, Louis H. [1948] *How to Predict Elections*, New York: Alfred A. Knopf.
- Brambor, Thomas, William Roberts Clark, and Matt Golder [2006] “Understanding Interaction Models: Improving Empirical Analyses,” *Political Analysis*, Vol. 14, No. 1, pp.63-82.
- Carey, John M., and Matthew Soberg Shugart [1995] “Incentives to Cultivate a Personal Vote: A Rank Ordering of Electoral Formulas,” *Electoral Studies*, Vol. 14, No. 4, pp.417-439.
- Campbell, James E., and Joe A. Sumners [1990] “Presidential Coattails in Senate Elections,” *American Political Science Review*, Vol. 84, No. 2, pp.513-524.
- Fair, Ray C. [2009] “Presidential and Congressional Vote-Share Equations,” *American Journal of Political Science*, Vol. 53, No. 1, pp.55-72.
- Ferejohn, John A., and Randall L. Calvert [1984] “Presidential Coattails in Historical Perspective,” *American Journal of Political Science*, Vol. 28, No. 1, pp.127-146.
- Hogan, Robert E. [2005] “Gubernatorial Coattail Effects in State Legislative Elections,” *Political Research Quarterly*, Vol. 58, No. 4, pp.587-597.
- Jones, Mark P. [1997] “Federalism and the Number of Parties in Argentine Congressional Elections,” *Journal of Politics*, Vol. 59, No. 2, pp.538-549.
- Kitchelt, Herbert [2000] “Linkages between Citizens and Politicians in Democratic Polities,” *Comparative Political Studies*, Vol. 33 No.6/7, pp.845-879.
- Laakso, Markku, and Rein Taagepera [1979] ““Effective” Number of Parties: A Measure with Application to West Europe,” *Comparative Political Studies*, Vol. 12, No. 1, pp.3-27.
- Llanos, Mariana, and Detlef Nolte [2003] “Bicameralism in the Americas: Around the Extremes of Symmetry and Incongruence,” *The Journal of Legislative Studies*, Vol. 9, No. 3, pp.54-86.
- Llanos, Mariana, and Francisco Sánchez [2006] “Council of Elders? The Senate and Its Members in the Southern Cone,” *Latin American Research Review*, Vol. 41, No. 1, pp.133-152.
- Lodola, Germán. [2010] *The Politics of Subnational Coalition Building: Gubernatorial Redistributive Strategies in Argentina and Brazil*. Ph.D. Dissertation submitted to the University of Pittsburgh.
- Magar, Eric [2012] “Gubernatorial Coattails in Mexican Congressional Elections,” *Journal of Politics*, Vol. 74, No. 2, pp.383-399.
- Miller, Warren E. [1955] “Presidential Coattails: A Study in Political Myth and Methodology,” *Public Opinion Quarterly*, Vol. 19, No. 4, pp.353-368.
- Melo, Carlos Ranulfo [2015] “The 2014 Elections and the Brazilian Party System,” *Brazilian Political Science Review*, Vol. 9, No. 1, pp.93-114.
- Meredith, Marc [2013] “Exploiting Friends-and-Neighbors to Estimate Coattail Effects,” *American Political Science Review*, Vol. 107, No. 4, pp.742-765.
- Power, Timothy J., and Marilia G. Mochel [2008] “Political Recruitment in an Executive-Centric System: Presidents, Ministers, and Governors in Brazil.” in Peter M. Siavelis and Scott Morgenstern eds., *Pathways to Power: Political Recruitment and Candidate Selection in Latin America*,

- University Park: The Pennsylvania State University Press, pp.218-240.
- Samuels, David [2003] *Ambition, Federalism, and Legislative Politics in Brazil*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Shugart, Matthew Soberg, and John M. Carey [1992] *Presidents and Assemblies: Constitutional Design and Electoral Dynamics*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Soares, Márcia Miranda [2013] “Influência majoritária em eleições proporcionais: Os efeitos presidenciais e governatoriais sobre as eleições para a Câmara dos Deputados brasileira (1994-2010),” *Dados*, Vol. 56, No. 2, pp.413-437.
- Zucco, Jr., Cesar [2011] “Esquerda, direita e governo: A ideologia dos partidos políticos brasileiros.” in Timothy J. Power e Cesar Zucco, Jr., eds., *O congresso por ele mesmo: Autopercepções da classe política brasileira*, Belo Horizonte: Editora ufmg, pp.37-60.
- 謝辞 本稿の内容の一部はJSPS 科研費 26885124の助成による研究成果に基づくものである。ここに記して感謝したい。

(きくち・ひろかず／アジア経済研究所)